

## 令和4年度第1回社会教育委員会議定例会（第32期） 会議録

|                       |      |   |
|-----------------------|------|---|
| 会議名（審議会等の名称）          |      | 令和4年度第1回社会教育委員会議定例会（第32期）   |
| 開催日時                  |      | 令和4年4月27日（水曜日）午後3時30分～午後5時15分   |
| 開催場所                  |      | 文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター601 講習室  |
| 出席状況                  | 委員   | 9人：伊藤（仁）委員、大川委員、大澤委員、小森委員、齋藤（正）委員、齋藤（道）委員、中山委員、長谷部委員、丸田委員   |
|                       | 関係各課 | 6人：文化スポーツ部長、文化振興課長、図書・学び交流課長、スポーツ課長、こども部長、こども・青少年課長   |
|                       | 事務局  | 2人：文化スポーツ部図書・学び交流課学び交流係長、同係員1人<br>学び交流係（046-259-6104）   |
|                       | 傍聴人数 | 0人  |
| 公開・非公開の状況             |      | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開  |
| 非公開・一部非公開の場合<br>はその理由 |      |   |
|                       |      | <p>1 会議次第</p> <p>（1）開会</p> <p>（2）報告事項</p> <p>    1）令和4年度社会教育関係の主要な事業について</p> <p>（3）協議事項</p> <p>    1）令和4年度社会教育関係団体への補助金について</p> <p>    2）令和4年度社会教育委員会議から選出する委員について</p> <p>    3）令和4年度社会教育委員に関する研修会等について</p> <p>    4）家庭教育支援に関する事業について</p> <p>（4）その他</p> <p>（5）閉会</p> <p>2 審議及び結果</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <p>&lt;開会&gt;</p> <p>&lt;事務局から配布資料の確認&gt;</p> <p>&lt;議長あいさつ&gt;</p> <p>&lt;関係各課紹介&gt;</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>「1）令和4年度社会教育関係の主要な事業」について担当課より報告<br/>（議長）担当課からの報告に対し、質問等があればお願いしたい。<br/>（委員）コミセンで実施している、やまとコミュニティ音楽館について、<br/>現在検討していることはあるか。</p> <p>（市）開催の方向で検討しているが、コロナ禍において、コミセンは1<br/>つの部屋が狭いということ、吹く楽器を使用するということ踏<br/>まえて現在調整中である。</p> <p>（委員）生涯学習振興基金について、今年度は3団体で75万円の補助金<br/>額だが、例えば申請が5団体あった場合、同じ規模で配分すると<br/>上限の100万円を超えてしまうと思う。その場合はどうするのか。</p> <p>（市）100万円というのは1つの基準として設けているものである。実</p> |

際の申請件数を踏まえて検討していきたいと考えているが、予算の関係上、ご申請いただいた団体すべてに対応できるかという点と難しいと考えている。

(委員) スポーツ課の事業について、今年度は色々な事業を再開すると報告があったが、事業は市のシンボルなので、制限がある中、できる方法を検討して開催してほしい。また、夏休みの小学校のプール開放について、今年度は再開するという点だが、プールは子どもの教育のために必要なものなので、温水プールの再開についても期待したい。

(市) 現在スポーツセンターがワクチンの接種会場となっているため、第1アリーナが使用できない状況となっている。感染状況を鑑みながら市の福祉部門と調整して施設を開放していきたい。また、今年の秋にはねんりんピックの開催予定があるので、そのような事業を通じての体力増進、健康増進が必要だと考えている。感染対策をして実施していきたい。コロナ禍も3年目ということで、工夫しながら対応していきたい。

#### <協議事項>

「1) 令和4年度社会教育関係団体への補助金」について、担当課より説明。

(議長) 事務局からの説明に対し、質問等があればお願いしたい。

(委員) 事業の中止等により、青少年3団体は市へ補助金の返還金があるが、PTA連絡協議会は市への返還金はないのか。

(市) 返還金はない。PTA連絡協議会への補助金の対象は事業に対してである。活動費の中には広報委員会の広報誌の発行の経費、バレーボール大会の経費、特別委員会の経費などがあり、それらが補助対象の経費となる。バレーボール大会自体は中止になったが、広報委員会が年1回発行している広報誌の経費が補助金額を上回っていたため、返還金はない。

(委員) 昨年度はコロナの影響があり、事業については中止するという判断が多かったと思うが、今年度については中止の判断の基準をどうしていくのかをお聞きしたい。

(市) 文化スポーツ部以外のイベントについても言えることだが、国が出しているイベント開催に関するガイドラインがある。例えば、ホールについては大声を出すものに関しては観客50%以内というガイドラインがある。基本的には事業は開催する方向で進めるが、ガイドラインの中で制限があるものについては順守する必要がある。これが市のスタンスである。ただ、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が出た場合はその内容に準じた形で検討していくことになる。また、市民団体などが施設を利用してイベント等を開催する場合については、施設ごとのガイドラインを順守した上での主催者判断という形になる。

(市) 基本的には図書・学び交流課長が説明したスタンスの中での話になるが、こども・青少年課ではお子さんを対象にした事業が多いため、ワクチン接種など、慎重に状況を見極めながら判断していく必要があると考えている。

( 市 ) これまでの2年間はどうしても安全面を考慮し、収まったら再開するというスタンスでいたが、現在は収まるというよりも、この状況の中でどういう対応をしながらいかに実施するか、またはやり方を変えていくかという考えになってきている。中止するのではなく、安全性を講じながらどうしたら実施できるのかというように考え方を変えていかなければならないと考えている。

(議 長) 他に質問は無いか。無ければ今年度の社会教育団体への補助金について承認してよいか。

(委 員) 異議なし。

～休憩～ (関係各課退席)

～再開～

「2) 令和4年度社会教育委員会議から選出する委員」について以下のとおり決定

- ① 生涯学習振興基金審査委員 (任期1年: 令和4年6月1日～)  
…大澤委員、中山委員
- ② 青少年問題協議会委員 (任期2年: 令和4年6月1日～)  
…丸田委員
- ③ 子ども読書活動推進会議委員 (任期3年: 令和3年6月1日～)  
…大川委員 (継続)
- ④ 神奈川県社会教育委員連絡協議会理事 (任期1年: 令和4年6月1日～)  
…丸田委員
- ⑤ 文化創造拠点等運営審議会委員 (任期2年: 令和4年9月1日～)  
…齋藤 (道) 委員

「3) 令和4年度社会教育委員に関する研修会等」について以下のとおり決定

(欠席委員がいるため、④⑦については次回会議で決定予定)

- ① 県社会教育委員連絡協議会総会  
…全員
- ② 県社会教育委員連絡協議会研修会  
…大川委員、伊藤 (仁) 委員
- ③ 社会教育委員連絡会議  
…丸田委員、小森委員
- ④ 県社会教育委員連絡協議会地区研究会 (愛川町)  
…齋藤 (正) 委員
- ⑤ 知ることからはじめる人権啓発研修講座  
…齋藤 (道) 委員、長谷部委員
- ⑥ 県公民館連絡協議会第63回県公民館大会  
…大澤委員、中山委員
- ⑦ 県社会教育委員連絡協議会地区研究会 (箱根町)

「4）家庭教育支援に関する事業」について、図書・学び交流課の社会教育主事より説明。

（市） 前回の会議にて、今年度も社会教育委員会議の活動として、引き続き家庭教育支援をテーマに活動していく旨ご検討いただき、新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら実施するとの条件付で承認いただいた。まず、今回は実施時期を11月としていたが、具体的な日程を検討する。11月5日（土）、6日（日）、12日（土）、13日（日）いずれかで実施したい。なお、佐々木洋さんのご都合に合わせて、決定次第ご連絡する。続いて会場については、中央林間コミセンを会場に座学を実施し、中央林間自然の森で講師の佐々木洋さんより、フィールドワーク（自然体験学習）を実施いただく予定である。座学においては委員の皆様にはファシリテーターとして各グループに入ってください、活発な意見交換が行われるよう、補助をお願いしたい。今後、感染状況をみながら会場確保と講師調整を行い、10月の受講者募集に向けて進めていく予定である。また、今年度はコミセンを座学の会場とするので、保育を実施予定である。

（議長） 事務局より、11月5日（土）、6日（日）、12日（土）、13日（日）のいずれかとの話があったが、現時点で都合の悪い日があればお知らせいただきたい。

各委員、都合の悪い日は以下のとおり

11月5日（土）

11月6日（日） 1名

11月12日（土） 2名

11月13日（日） 1名

（議長） では引き続き、事前に事務局より連絡のあった家庭教育支援のテーマについての意見交換に移る。事務局より説明をお願いしたい。

（市） 社会教育委員会議の活動成果をまとめていく上で、これまでの取組経緯や主催講座の状況を再確認したうえで、「地域ぐるみの家庭教育に必要な支援について」をテーマに、3分間で社会教育委員の皆様からご意見やお考えをお聞きしたいと考え、意見交換を企画した。みなさまから各自3分間のスピーチでご意見をいただいた後、それらを基に、意見交換を行っていただきたい。

（議長） それでは、各委員3分間でスピーチをお願いしたい。

（委員） 前回、ゆとりの森での家庭教育支援講座に参加し、とてもいい試みだと思った。各家庭に支援を届けていくには様々な切り口で取り組んでいくことで浸透していくと思い、私が所属する団体でも何か役に立てることがないか考えてみた。外国につながる子どもたちは、家では母国の言語で会話をしていたり、両親が経済的に厳しかったり、子どもの面倒があまり見られないというような状況があり、私たちは毎年夏休みに「まなべ〜る」という事業を実施してきた。高校生、大学生のボランティアが外国につながる子どもたちにマンツーマンで、夏休みの宿題を見守る活動をしてお

り、非常に人気を得ていた。ただ、コロナ禍でこの2年間この活動ができていない。1対1で真横に座って話をするというのが難しいのと、高校生の課外活動禁止という学校が非常に多かったため、高校生にボランティアをお願いすることができなかった。ずっと中止にするのではなく、何かできる形での実施をしていこうと思い、考えたのが「IFCまなべ〜る 2022Summer スクール@泉の森」である。これは前回の家庭教育支援講座でヒントを得て考えた。泉の森の自然観察センター職員に講師をお願いし、親子で何かできないかを考えた。特に外国につながる子どもたちは夏休みの自由研究がとても苦手で、その子たちに向けて親子で探すヒントになるものがないか考えた。室内ではなく屋外でやることで、コロナ禍でも可能と考えている。7月31日(日)実施予定である。セミの羽化の観察や、樹液を置いてどんな昆虫が集まるかなど、実際に見せる内容を予定している。外国につながる子どもたちは親子のコミュニケーションができていないことが多いので、虫について親子で話したり、夏休みの自由研究のきっかけになればよいと考えている。屋外のイベントということで高校生、大学生にも参加してもらい、信頼できる先輩たちが一緒になって活動してもらうことでまた違った形にできると思うので、そこも探っていきたい。雨が降った場合は自然観察センター内に動物や植物の展示物があるのでそれを見たり、木工で何かを作ってもいいと思っている。今回はこういうような形で、外国にルーツを持つ、外国につながりがある子どもたちの親子に対して何かやっていくことで、家庭学習支援に繋がることを考え実施予定である。

(委員) 事前にいただいた「家庭教育に必要な支援について(意見交換)」の資料の中で、持続可能な地域ぐるみの支援体制づくりを目指すというキーワードがあり、持続可能、地域ぐるみという2つのキーワードを具現化するには何が一番いいかと思い、考えた結果、老若男女が幅広い世代の中で、子どもたちの家庭教育を支援していくのが望ましいのではないかと思った。第63回神奈川県公民館大会のDVDを拝見させていただき、その中の実践記録として武蔵野の森を育てる会という東京都武蔵野市の活動を紹介していた。その活動は、生物の多様性の観点から保全活動を行っていくというもので、幼児から高齢者まで幅広い世代が参加し、特にリーダー的に活動しているのが高校生、大学生であった。具体的には、武蔵野の雑木林を中心に外来種を排除する活動、清掃活動、子どもたちの自然ふれあい遊びなどを行っているということで、このようなことが大和市でも行われるようになるといいと思った。社会教育委員会議で佐々木洋先生を招いてやっているようなことを具現化するには身近な公園を住民が掃除するような活動や、行政と協力しながら森や緑地での活動などが持続可能な地域ぐるみの活動になると考えた。

(委員) 大和国際フレンドクラブ、母親クラブ、学習センターなど、いろいろなことをそれぞれでしているが、なかなか情報として一元化されていないことがもったいないと感じている。大和市は今、居場所作りに力を入れているが、その拠点を作ることと情報連携が必要だと思っている。今回のテーマについて、昭和の時代は近所のおじさんやおばさんが、そんなことやっちゃいけないよと注意

してくれたり見守ってくれたり、地域ぐるみの家庭教育など言わなくても自然にできてきたはずだが、平成、令和と時代が流れるにつれ、不審者が出るなど子どもたちは安心して外に出られなくなり、悲しい時代になってきている。信頼関係を築き、顔の見える関係をその地域ごとに作り、情報交換しながら広げていく必要がある。学習センターで勤務していたが、その頃は社会教育指導員が家庭教育学級などの講座を企画・募集して、そこで集まったお母さん方に声をかけて、活動が続くように種まきをしていた。講座をただ聞き終わりではなく、そのきっかけを作れないかと思っている。市ではいろいろなことをしているのに横の連携ができてないのがもったいないと思う。

(委員) 直接私達が家庭教育支援事業をしていることはいいことだと思うが、社会教育委員の本来の役割なのだろうかと思っている。社会教育委員で事業を何年かやっているが、シリウス、ポラリス、青少年センターなどで同じようなことをしているのではないかと重複していることがあるのではないかとこのことを検証して、何か新しいこと見つけていくことも社会教育委員の仕事だと思っている。児童館が市内に 22 あることをご存じか。あまり知られていないかもしれない。児童館が単独で存在しているのは上和田東と子安の 2 か所しかない。あとはコミュニティセンターに併設されている。児童館は年間 14 万人の子どもが来ている。コミセンは 37 万人で、合わせて 50 万を超える。子どもとお母さんと繋げるためには児童館をどう有効活用していくか考える必要があるのではないかと。

(委員) 私は母親クラブのさくらブロックで活動しているが、季節行事を未就園児の親子を対象に行い、安心して遊ばせることのできる場の提供をしている。そこはお母さん方にとって交流の場にもなっている。その中で、必ず最初に絵本の読み聞かせをしている。そのときに親子で絵本を見るが、途中でお母さんが飽きてしまい、他のお母さんと話を始めてしまうことが多い。まず初めにお母さん方のお喋りは子どもにとっては雑音になるので、終わりまで最後まで聞いてくださいますの説明をしている。20 年以上やっているが、母親の意識がだんだん変わってきていると感じる。例えば運動会では綱引きとかパン食いなどを取り入れているが、必ずスマホでわが子を撮っている。時代背景なので仕方ないと思うが、企画に集中してもらいたい。お母さんたちが仲間意識を持ち、グループを組んで活動をしてほしいと思ってそのような場を作っているが、なかなか育っていかない。今は子育て支援が多すぎて、毎日無料でいろいろなところに行くことができる。私が若い頃は子育て支援がない時代だったので、自分たちで指導していくためには仲間を作り、いろんなことを考えて実現する、その過程がとても楽しくて面白かったが、今はあまりにも支援の手があまりすぎると感じている。

(委員) 今年度の家庭教育支援講座は市北部の中央林間自然の森で、去年と同じテーマでやっていただきたいと思いますと思っている。

(委員) 昨秋に家庭教育支援講座に参加して、座学は勉強になり、屋外での自然体験は楽しむことができた。参加した方も多くの刺激があったと思う。あのような場をたくさん設けることができれば良いと思うが、年に何回も実施するのは難しいと思う。今の母親は忙しくて子どもの話に耳を傾けることができなかつたり、自分自身が忙しいことでイライラしている方が多いと思う。そのような方々を人生の先輩である我々で手助けしていきたいと思う。今まで社会教育委員で実施してきた家庭教育支援はとても素敵なことだと思うので、今後も継続していけたらいいと思う。

(委員) 公民館と生涯学習課で働いてきたので、その経験から話をしたい。学校、家庭、地域が連携して子どもが健やかに育つということが社会教育であるとずっと言われてきたが、社会教育委員というのは地域とのパイプ役でもあると考えている。その中で、公民館という場所が一つの拠点となっている。私が公民館で勤務していた25年ぐらい前にも家庭教育支援のような活動は行われていた。参加者に喜んでいただけるのでよかったと思うが、参加してくれる人は、元々家庭教育に関心や意識がある方が多い。実際に子育てで悩んだり、困っている人はどこに相談していいかわからない方が多いとその当時は思っていた。例えば乳児検診は必ず来るので、終わった後に家庭教育支援講座を行うというのも一つの手だと思う。事業の募集を掛けても小学校低学年から中学年は来てくれるが、小学校高学年から中学生は塾や部活が忙しくてなかなか来てくれなかったので、人づてで集めてもらうということが多かった。

親子の講座をしても子どもをほったらかしにして親同士でおしゃべりを始めてしまうということもよくあり、親の教育からしっかりやる必要もあるのではないかと思っている。

(議長) 自分たちが研究したものを行政へ報告し、それを行政が社会教育計画としてまとめて社会教育施策を展開していくというのが社会教育委員会議の本来の姿である。現状の保護者についての話があったが、だからこそ地域で子どもを育てていかなければならない。保護者に頼るのではなく地域のおじさんおばさんが子どもを見て、日ごろからふれあいを持つことでお互い声を掛けられるようになる。そのような関係づくりを今までの家庭教育支援講座で行ってきたと思っている。幼児教育については色々なところでやっているの、やはり小中学生にポイントを当ててやっていくのが一つの方法だと感じている。皆さんの意見を事務局がまとめてくれると思うので、次回さらに詰めていきたいと思う。

次回の日程について、事務局より願います。

(市) 次回は令和4年度第2回定例会議を7月に開催予定である。7月4日(月)、6日(水)、7日(木)のいずれかで人数の多い日にしたいと考えている。

～各委員に確認～

本日欠席の委員にも後日確認するが、7月4日(月)を第一候補日とする。事務局からは以上である。

|             |   |
|-------------|---|
|             | <p>(議 長) これにて議事を終了とする。<br/> &lt;閉会&gt;</p>  |
| <p>会議資料</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 4 年度社会教育関係の主要な事業</li> <li>・ 令和 4 年度社会教育関係団体への補助金</li> <li>・ 社会教育関係団体の令和 3 年度事業報告・決算報告 (4 団体)、<br/> 令和 4 年度事業計画・予算 (4 団体)</li> <li>・ 令和 4 年度社会教育委員会議から選出する委員</li> <li>・ 令和 4 年度社会教育委員に関する研修会等</li> <li>・ 家庭教育支援に関する事業</li> </ul> |